

卒業論文

大学生の血液型性格診断信奉度の性別および文理比較

2009 年度入学
九州大学 文学部 人文学科
人間科学コース
社会学・地域福祉社会学専門分野
2013 年 1 月提出

要約

本論文では血液型と性格に関連があるという考え方＝血液型性格診断、血液型性格関連説に関する分析を行う。血液型性格診断については、心理学の見地から「なぜ血液型性格診断は信じられるのか」といった議論は多くみられるが、社会学的に論じられているものは少ない。そこで血液型性格診断はどのような人に信じられているのか、その信奉度は性別および文理別によって差があるのか、またどのような場面で信じられているのかを明らかにすることを目的としている。

第1章は、血液型性格診断についての概要となっている。血液型性格診断とはどのようなものかを説明し、日本において血液型性格診断がどのように提唱され、現在のように広く受け入れられるようになったか、歴史をまとめている。

続く第2章では、日本においてこれほどまでに血液型性格診断が受け入れられている理由について考察する。それをより明確にするため、血氣型性格診断が浸透していない外国との比較も行っている。日本はほとんどの人が自分の血液型を知っていること、血液型の分布のバランスがいいこと、メディアで数多く取り上げられたことなどが主な理由であるのではないかと考えた。

今回は九州大学の学生に血液型性格診断に関するアンケートを行うこととした。第3章では、調査について具体的に記述している。それぞれの血液型について最も一般的に言われている性格を用いて質問票を作成した。

第4章では分析・仮説の検証・考察を行っている。主な分析方法は重回帰分析と、相関である。これらの分析の結果主に分かったことは以下の点である。

重回帰分析の結果、女性のほう、文系のほう、テレビの視聴時間が長い人のほうがそうでない人よりも血液型性格診断を信じていることが分かった。この3つの内最も影響が大きかったのはテレビの視聴時間であり、次いで性別、所属と続く。本人の血液型が血液型性格診断の信奉に与える影響は小さかった。

血液型性格診断の信奉を行動の重要度別にみると、一緒にご飯を食べるといった重要度の低い行動の際には血液型を重視せず、結婚のように重要度の高い行動の際には血液型を考慮して決定を下していることが明らかになった。

最後に全体のまとめを行い、本論文を締めくくっている。

一目次一

はじめに	1
第1章 血液型性格診断について	2
1-1. 血液型性格診断とは	2
1-2. 血液型性格関連説の歴史	2
(1) 原来復	2
(2) 古川竹二	3
(3) 能見正比古	5
(4) テレビ番組	6
(5) 『自分の説明書』	6
(6) NPO 血液型人間科学研究所センター	8
(7) 学者・番組別各血液型の特徴の比較	10
第2章 日本、外国における血液型性格診断信奉	11
2-1. 日本における信奉	11
2-2. 外国における信奉	12
2-3. 最近の血液型性格関連説についての研究	15
2-4. 問題設定	16
第3章 血液型性格診断信奉についての分析	17
3-1. 質問項目	17
3-2. プレテスト	18
3-3. 本調査の概要	19
3-4. 変数について	20
第4章 分析と考察	20
4.1 血液型性格関連説についての知識	20
4.2 血液型性格診断信奉度の属性別比較	21
4.3 行動の重要度別血液型性格診断信奉	25
4.4 血液型の提示・不提示時における自分の性格の評価の変化	32
4.5 血液型性格診断が当たっているという実感	34
4.6 まとめと反省	35
おわりに	36

参考文献 37

付録 調査票・単純集計